

【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



# 学校だより 堂崎つ子

第 26 号

令和 7 年 3 月 10 日

南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

## 6年生を送る会を行いました。 2月27日（木）

この1年間、堂崎小学校の顔として、下級生のために、運動会や委員会活動、集団登校、たて割り遊びなど、様々な行事で手本となり、リーダーとして頑張った6年生、その「6年生を送る会」を行いました。



1年から5年までの心のこもったメッセージや出し物、また、それに応えての6年生の出し物（劇・歌等）がありました。最後は、美しい歌声を響かせての全校合唱「きみとぼくのラララ」で締めくくりました。忘れられない贈りものとして、みんなの心に深く刻まれることと思います。

また、全校児童を代表して企画委員による校旗引継ぎ式も行われ、149年という長い歴史の重みを感じた次第です。これから、今の5年生を先頭に引き継いでいくことでしょう。



<5年生：全員参加型の6年生クイズ>



<2年生：6年生と8の字跳び対決他>



<1年生：メッセージ、歌、手紙、似顔絵>



<3年生：運動会応援の再現>



<4年生：「茶色の花びん」演奏と替え歌・応援Ver>



<6年生：「思い出のアルバム」、「ビリーブ」>

## 第1回雅楽鑑賞学習（5・6年生） 2月18日（火）

南有馬町 常光寺住職 園城様 を講師にお招きし、「雅楽」鑑賞の学習を行いました。「越天楽今様」を聴き、「楽曲の音色や曲想を感じる。」ことはもちろん、「雅楽についての意味を知ること、自分と友達の関わりに気付かせる。」という目的で、今回実施の運びとなりました。「人と人の関わりの中で、言葉と言葉が足りないとき、その伝えたいことを音楽で補うことができる。」「音楽は人の心を和らげたり人の気持ちを伝えたりする。」ということ学びました。

話の中で、特に印象的だったのは、次の内容です。

- ☐ よけいな言葉、大きな音があると喧嘩になる。
- ☐ 言葉が足りないとき、伝えたいことを音楽で伝えることができる。
- ☐ 優しく吹くと、楽器が苦手な人も、「ちょっと付き合ってみようかな。」と思うでしょう。



## 第2回子供を伸ばす会（学校支援会議） 2月20日（木）より

6月25日以来、主任児童員様、民生児童委員様、老人会長様、学校評議員、PTA本部役員の皆様をお招きし、2回目の開催となりました。学校における子供たちの学習面や生活面の様子、地域における様子等について情報交換を行うとともに、児童・保護者・教職員3者による学校アンケートの結果に、学校関係者という立場からご意見をいただきました。この学校アンケート結果をもとに、子供たちのより良い成長のため、どのように関わっていくのか意見交換をいたしました。

子供たちの学力向上はもとより思いやりの心や規範意識をしっかりと育て、潤いとやる気にあふれる学校づくりに力を注いでいきたいと決意を新たにしました。

□ 挨拶について教職員の評価、児童・保護者の評価に差があるのはなぜか？

→「明るく、自分から」という点で、十分でないと感じている。進んで挨拶ができていない現状がある。

□ 子供の読書についての評価が低い。これは、保護者の本（読書）離れが影響している。

・高校生とバスに乗り合わせるが、スマホばかりで、誰も本を読んでいない。

・寺子屋で「読み聞かせ」をしているが、楽しく本と触れあっている。男の子は、図鑑のような目で見える本を好む傾向にある。

・図書館利用をよくする。本が大好きで、子供からお願いしてくる。読み聞かせから卒業して、自分から読む。

→ 学力向上の面からも、「読む力」は欠かせない。活字離れにならないように、読書への関心や選書の質を高めていく。

□ 歩いて登校の項目で、教職員と児童・保護者の評価に差があるのはなぜか。

→ 少しの雨でも、すぐに送ってもらう児童が多い。起床が遅れ、高学年がスクールバス・集団登校に来ないこともある。

□ 自転車・歩行者専用道路の利用状況はどうか。

・現在、堂崎公民館に集合して登校する地区、複数の地区が利用している。

・子供たちは、学童や自宅まで自分たちで概ね並んで帰っている。楽しそうな声がよく聞こえる。

・地域住民へ届ける子供の元気な声、地域の見守り活動はWin-Winの関係に。

□ かつては、田んぼを借りて稲作活動（田植え・稲刈り等）を取り入れていた。このような体験活動を取り入れてはどうか。

→ コロナ禍に地域との交流が薄れてしまった。今後、地域の魅力を学ぶ機会をできる範囲で、教育活動に無理のないように取り入れていきたい。

## 卒業式の練習を始めました。

3月18日の卒業証書授与式に向けた練習が始まりました。式に臨む態度、心構え、作法、別れの言葉や式歌の練習等、練習することがたくさんあって、大変です。また、校舎内外清掃奉仕活動にも取り組んでいます。卒業を間近に控えた6年生に、頼もしさとやさしさを感じている今日この頃です。



## セミナリヨ現代版画展表彰（2月22日：土）の様子から。

県内はもとより、九州各地、遠くは東京方面より表彰式に参加されていました。少々緊張した表情で、準大賞（渡辺千尋賞）受賞の岡田君、奨励賞受賞の6年生代表児童が参加しました。

3月7日（金）校内において、入賞者の紹介と伝達表彰を行いました。

【審査委員より直接講評をいただきました。（掘った線の鋭さ、バランスの良さ等）】

期間中、セミナリヨ現代版画展を見に行かれた方々も多かったのではないのでしょうか。

